



第 102 回 JIA アーバントリップ

(土浦亀城アーカイブズ)

ふたつの昭和初期建築遺産：
保存と再生のみちのりとこれから

日時：2025 年 3 月 6 日（木）9：20～16：00（予定）

主催：日本建築家協会関東甲信越支部アーバントリップ実行委員会



(撮影：田中克昌)

ふたつの昭和初期建築遺産 ：保存と再生のみちのりとこれから

多くの古い建築物が、時代の流れから消えていく運命をたどる中、昭和初期の2つの名建築がこの度「保存」され「活用」されています。戦火をくぐり 100 年近く残された建物が、困難な復元や改修を経て、当時の形でリアルな空間として存在することは、単純に「保存」すること以上の価値があるのではないのでしょうか。第 102 回 JIA アーバントリップでは、この貴重な事例である「土浦亀城邸」と「堀ビル (goodoffice 新橋)」を取り上げ、古い建物が新しい時代へ継承される保存過程を学び、今後のありようを考察してまいります。

土浦亀城邸は、1935 年に竣工し東京都指定有形文化財、DOCOMOMO Japan の最初の 20 選に選ばれ、2024 年に本人設計による木造モダニズムの価値を損なうことなく創建時の状態に修復することを命題に、品川区上大崎からポーラ青山ビルディング敷地内へ復原・移築されました。

堀ビルは堀商店の本社ビルとして 1932 年竣工。歴史的なデザインに基づいた豊かな内外の装飾から東京都選定歴史建造物及び国の登録有形文化財に指定されました。その後竹中工務店により、「レガシー活用事業」として改修工事の後、現在はオープンノベーションを誘発するシェアオフィスとして活用されています。

土浦亀城邸は再生と移築を設計監修された安田幸一氏に、堀ビルは現在シェアオフィスと共用活動されている竹中工務店 COL-Lab 新橋と設計本部の皆様から実際の保存と活用について解説をいただきます。復原・移築による新たな一歩を踏み出した「土浦邸」、シェアオフィスとして利用される「堀ビル」、時代精神をも内包し「保存」「再生」というプロセスを経た二つの建築ですが、利活用の仕方の違いを学び、価値ある古い建築物を保存、活用する意義を感じていただけたら幸いです。



土浦亀城邸内観 (土浦亀城アーカイブズ)



堀ビル (goodoffice 新橋) 1階コワーキングラウンジ (撮影：田中克昌)

日時 : 2025 年 3 月 6 日 (木) 9:20 ~ 16:00 (予定)

集合場所 : Esta 青山 (青山タワービル 13F)

参加費 : 3,000 円 (税込) (イヤフォンガイド ¥1200、観覧料 ¥1500、保険料、資料代等を含む)

定員ほか : 50 名 (原則先着順、募集定員に達し次第締め切り)、JIA 会員限定 (JIA 会員以外の一般は参加できません)

申込方法 : 参加希望の方は、右記 Google フォームよりお申込み願います。 <https://forms.gle/um15CZ9LNQzB6HUw7>

問合せ先 : 公益社団法人 日本建築家協会 (JIA) 関東甲信越支部事務局 urbantrip@jia.or.jp

主催 : 公益社団法人日本建築家協会 (JIA) 関東甲信越支部アーバントリップ実行委員会

共催 : 株式会社ピーオーエステート (土浦亀城邸見学)、公益財団法人日本建築家協会 (JIA) 関東甲信越支部保存問題委員会

協賛 : 旭ビルウォール (株)、(株) イケガミ、三協立山 (株)、(株) 東京工営、(株) ユニオン

協力 : (株) 新国際通信社

